

プロジェクト型クラウドソーシングにおけるワーカのスキル推薦

大石 啓登

フリーランスや副業が注目される現代において、日本のクラウドソーシングの市場は年々拡大しており、2022年度には2,749億円に達している。クラウドソーシングには簡単なタスクを大量のワーカに依頼し全員に報酬が与えられる「マイクロタスク型」、複数のワーカによるコンテスト形式でクライアントが気に入ったものに報酬が与えられる「コンペティション型」、ワーカとクライアントが相談して報酬を決定する「プロジェクト型」の3つの種類が存在し、最も市場規模が大きいのはプロジェクト型である。クラウドソーシング市場が拡大していく一方、様々な問題が指摘されており、その一つにワーカのスキルアップのサポートが挙げられている。

本研究では、ワーカの現在のスキルと、実際のプロジェクト型クラウドソーシングのデータを基にワーカにとって望ましいスキルを推薦する手法を提案する。具体的には、最初に、そのワーカにとって価値のあるスキルについて定義する。その後、ワーカが現在持つスキルと現在存在する仕事で必要とされるスキルの情報からその定義に基づいて新規スキルを推薦する手法について述べる。我々の知る限り、既存研究にはプロジェクト型クラウドソーシングにおけるスキル推薦を行う試みは行われていない。関連分野の研究であるマイクロタスク型のクラウドソーシングにおいて、ワーカが与えられたタスクをこなす能力を推定し、ワーカの能力に応じて適切な難易度のタスクを割り当てる研究が存在する。しかし、これはあくまで「タスク」に着目したものであり、ワーカが使用する「スキル」に着目したのではない。また、求人サービスのデータを利用して、求職者の経歴や保持スキルから能力を推定し、適切な求人情報をマッチングするような研究やスキルの市場価値を求める研究が行われている。しかし、これらの求人サービスで求職者の能力を推定する研究や、スキルの市場価値を求める研究は求職者の履歴書を主に使用しており、このようなデータを得ることが困難なプロジェクト型クラウドソーシングプラットフォームにおいて応用することは難しい。

本研究の手法を利用することにより、関連する価値の高いスキルを推薦することが可能であることを確認した。

(指導教員 森嶋 厚行)